

執筆者紹介（掲載順）

北川 弘光（きたがわ ひろみつ）

1959年横浜国立大学造船工学科卒業後、運輸省船舶技術研究所（現海上技術安全研究所）入所。工学博士（東京大学）。同所推進性能部長、所長を経て、（財）日本造船技術センター理事長、北海道大学大学院工学研究科教授などを歴任し、現在、海洋政策研究財団（OPRF）特別研究員。船舶流体力学、氷工学、海事工学、コンクリート工学などの研究論文130編以上。その他グラスゴー大学、カナダ海洋工学研究所の客員研究員や日本造船学会試験水槽委員会委員長、国際試験水槽会議理事、国際極地工学会議（POAC）会長、文部科学省南極輸送問題調査会議座長、国際北極海航路研究調査事業（INSROP）日本側コーディネータ、寒冷海域資源輸送問題研究事業（OPRF）委員長、『北極海航路』（OPRF）の編集主査、『New Era in Far East Russia & Asia』（OPRF）編集主幹などを務めた。所属学会は日本船舶海洋工学会（終身会員）等多数。

杉崎 昭生（すぎさき あきお）

東京商船大学学長を経て、現在東京商船大学及び東京海洋大学名誉教授、（社）海洋学会会長。日本航海学会会長等を歴任し、船舶運航の自動化・知能化、海上交通流シミュレータ、船舶運航・物流エキスパートシステムの開発、レーダ偽像予測研究、衝突・乗揚防止システム、操船シミュレータ、レーダシミュレータ、安全問題等について研究。主要著書に、『電子計算機と船舶の自動化』、『船舶システム設計』、『Prologを学ぶ』等、主要論文に『海事交通研究』第55集所収の「海事社会の基盤整備～主として海技技術者に関する人材基盤～」の他、上記分野に関する80編以上の論文があり、日本航海学会の論文賞を4回受賞。又、情報化推進貢献により運輸大臣表彰、工業標準化貢献により通商産業大臣表彰を夫々受賞している。他に、日本船舶海洋工学会、電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会に所属。

逸見 真（へんみ しん）

1985年東京商船大学商船学部航海学科卒業後、筑波大学大学院において、経営政策科学研究科企業法学専攻課程、ビジネス科学研究科企業科学専攻課程（企業法コース）を修了。博士（法学）。一級海技士（航海）。新和海運（株）船長を経て現在、（独）海技教育機構海技大学校に勤務、航海科教室准教授。研究分野は海運・海洋に関する国際法、海事法。博士論文『便宜置籍船論』（信山社発行）は2009年山縣勝見賞（論文賞）を受賞。その他、論文、「PSCの法的根拠とその課題」、「ISMコードの利用による船員処罰の回避」、「国際法における海賊行為の定義」などがある。国際法学会、日本海法学会、日本航海学会、日本コンラッド協会所属。

長谷 知治 (はせ ともはる)

1994年東京大学法学部卒業後、運輸省（現国土交通省）入省。運輸省運輸政策局貨物流通企画課、大蔵省国際金融局（現財務省国際局）、近畿運輸局運航部輸送課長、国土交通省海事局総務課専門官、同油濁保障対策官（外航課課長補佐併任）、人事院在外派遣研究員（英国運輸省海事局）、国土交通省自動車交通局技術安全部環境課課長補佐、環境省水・大気環境局自動車環境対策課総括課長補佐等を経て、2008年より東京大学公共政策大学院特任准教授、東京大学海洋アライアンス推進委員。船舶職員法、油濁損害賠償保障法の改正や、2003年油濁損害に係る追加基金議定書の策定等に従事。所属学会は日本公共政策学会、日本海洋政策研究会。

鈴木 裕介 (すずき ゆうすけ)

2009年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。商学博士（神戸大学）。神戸大学大学院在学中の2年間、海洋政策研究財団にて研究員として勤務。現在は神戸大学経営学研究科学術研究員。専門は交通経済学。主に自動車交通や物流の環境問題や外部費用の推定に関する研究を行っている。主要論文としては、“Estimation of Social Cost of Transport”（水谷文俊、酒井裕規と共著）や「地域の自動車利用に対する費用負担に関する分析－燃料税に対する議論を中心に－」などがある。日本交通学会、日本海運経済学会所属。

松尾 俊彦 (まつお としひこ)

1982年東京商船大学大学院修了。博士（工学）。東京商船大学、広島商船高専、富山商船高専を経て、現在、東海大学海洋学部教授。海運へのモーダルシフトの研究を進める中で、港湾のあり方にも関心を持つ。近年の論文としては、「我が国の国際フェリー・RORO船航路の特徴と課題」、「中長距離フェリーの利用モデルと航路に関する研究」、「インターモーダル輸送と港湾整備に関する一考察」などがある他、『国際海上コンテナ輸送概論』、『交通と物流システム』、『経済社会と港湾』などの共著作がある。日本物流学会、日本港湾経済学会、日本航海学会、日本沿岸域学会、日本交通学会などに所属。

姜 天勇 (きょう てんゆう)

阪南大学国際コミュニケーション学部国際観光学科卒。大阪市立大学大学院経営学研究科前期博士課程（グローバル・ビジネス専攻）を修了し、現在同後期博士課程3年に在学中。研究分野は港湾政策（特に中国の港湾政策）。研究論文として「中国港湾政策の変遷とその役割についての研究」（日本海運経済学会『海運経済研究』第42号）、「日本企業の中国立地の新展開について--製造企業と物流企業を中心に」（大阪市立大学経営学会『経営研究』55(3・4)（共著））、「日本港湾の復権と港湾組織づくり」（2010年「海の日」の日本海事新聞社・日本海洋政策研究会主催懸賞論文にて優秀賞受賞）があるほか、学会発表として「大連港の「北東アジア国際航運センター」の発展戦略についての一考察」（日本海運経済学会第40回全国大会）がある。日本海運経済学会、日本港湾経済学会所属。

(敬称略)